

総括評価表

重点課題 1

「学習指導の改善と確かな学力の向上」

\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策	
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	総合評価(評定)		
(全体レベル) 指導方法の工夫・改善を行い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、確かな学力の向上を図る。  (下位組織レベル) ①基礎学力、受験学力の向上 ②家庭学習の習慣化と家庭との連携 ③教科指導力の向上と授業の質的転換 ④読書習慣の定着化、読書内容の向上 ⑤進路意識の高揚	<b>評価指標</b> ①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 70%以上 (75.0%目標→62.2%) ②1日の平均学習時間 1.0 時間未満の生徒数 60人以下(60人目標→78人) 学年別進路保護者会出席率 55%以上 (55%目標→50.9%) ③生徒による授業評価「理解が深まっている」 生徒割合 85%以上(85%目標→80.5%) 「興味・関心が高まっている」生徒80%以上 (80%目標→72.3%) ④図書貸出冊数一人 7.5冊以上 (10.0冊目標→6.78冊) 生徒一人あたりの入館回数 10回以上 (10回目標→8.92回) ⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 85%以上 (85%目標→76.5%) 進路決定率 100%(100%目標→97.8%)	<b>評価指標による達成度</b> ①進研模試3教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較 74.4% ②1日の平均学習時間 1.0 時間未満の生徒数 63人 学年別進路保護者会出席率 65.8%(2学年はリモート接続数で算出) ③生徒による授業評価 「理解が深まっている」 81% 「興味・関心が高まっている」 81% ④図書貸出冊数一人 5.28冊 生徒一人あたりの入館回数 9.95回 ⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 82.3% 進路決定率 92.0%(3/15現在)	評定 B B B C	総合評価 評定 B	総合評価(評定) B	
	<b>活動計画</b> ①-1 学力養成講座(補習等)の効果的な実施と時間の確保(継続) ①-2 個別指導の効果的な実施と学習環境整備(継続) ①-3 基礎的・基本的知識等の定着(継続) ②-1 学習時間記録の効果的な活用(継続) ②-2 予習を前提とした授業展開の工夫(継続) ②-3 課題の効果的な提供(継続) ②-4 学年別進路保護者会での効果的な情報提供(進路, 学年間) ③-1 授業公開, 研究授業の活性化(継続, 継続)	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 早朝, 放課後, 長期休業中の補習について, 可能な限り組織的・計画的に実施した。週2日(月・火)の放課後, 2時間の補習時間を確保した。3年生は朝補習のほか, 小論文, 面接等の指導を組織的・計画的に実施した。 ①-2 個別指導の場を工夫し, 生徒個々のニーズに応じた学びの提供と弱点の克服に資することができた。欠点保持者に対して個々に学ぶ手立てをきめ細かく指導した。学習進度に応じてバランス良く計画的に週末課題等を与え, アフターケアとフィードバックを行った。家庭学習の習慣化と学習内容の確実な定着が図られた。 ①-3 単元の途中などに適宜小テスト等を導入し形成的評価を行うとともに, 課題テストを実施し, 基礎・基本的内容についての理解度を把握した。 ②-1 「家庭学習時間調査」を実施して定期的に学習状況を把握した。学習成績との相関関係を分析し, 進路実現に向けた指導に役立てた。 ②-2 次回の授業内容に直結した「読む・調べる・書く」等の課題を与え, 予習したことによって価値がある授業を展開した。これに取り組ませることにより, 新しい興味・関心, 知識をもたせ, これらを活用して問題を解いたり議論した。 ②-3 定期考査前1週間を学習週間とし, 各教科のバランスを取りながら取り組みやすい課題, 時間がかかる課題等を織り交ぜて提供した。 ②-4 昨年度に引き続き, 外部施設を利用した開催となった。進路指導主事, 学年主任等が, 生徒の学習状況(家庭も含む), 入試制度, 保護者としての心構えと必要な準備等について, 各学年に応じた説明及び依頼を行った。2学年はコロナ禍のためリモートによる開催となったが, 多くの保護者に参加いただけた。 ③-1 授業を参観する公開授業週間(9/10-22, 11/1-12)を計画し, 授業改善及び授業力向上研修を効果的に実施した。空き時間が同じ教員が教科を超えたチーム, ペアになり授業を参観し, 放課後等を利用して事後研修を行った。 ③-2 分かりやすさ, 新しい知見の獲得, 将来とのつながり, 学ぶ面	<b>所見</b> 学習時間は増加し, 定期考査を軸に学習習慣をつけるという目的はある程度達成された。しかし, 家庭学習時間が1時間未満の生徒数はまだ多く, 生徒の意識変革と自力学習力の育成が課題である。 進路に関する情報提供については, 早期及び継続的に行っている。今後, 1年次からの進路講演会や学年集会等で読書による知の構築の推進等も含め, より進路意識を高め, 目標のぶれや安易な妥協の流れを食い止めることを目指す。 共通テスト導入2年目であり, 最新の入試動向等, 生徒の進路実現に向けた多くのヒン	<b>学校関係者の意見</b> 基礎学力の向上と家庭学習の習慣化は強く連動している。受験学力の向上も生徒や保護者への意識付けも重要である。補習の実施や工夫した個別指導, 週末課題ではアフターケアとフィードバックがなされ, 家庭学習の習慣化による学習内容の定着化が図られた。多くの取り組みに, 成果が見られるので今後も継続されたい。 早期からの進路指導により生徒や保護者の意識を高め, 目標のブレや安易な妥協の流れを阻止することができた。	①-1 課題解決への自主性確保(宿題との相違性) ①-2 補習時間, 教員の確保, 個別指導場所の整備 ①-3 継続実施 ②-1 1年生, 保護者への徹底 ②-2 「予習→授業→復習」サイクルの確立と予習の習慣化 ②-3 継続実施 ②-4 学習ガイダンスの内容の伝達 ③-1 参観ポイントの掲示とアドバイスの焦点化 ③-2 継続実施 ③-3 学びの振り返	

<p>③-2 生徒による授業評価の工夫(教員, 渉)</p> <p>③-3 カリキュラムマネジメントが機能している授業展開(全員)</p> <p>④-1 魅力ある図書館づくり(情報・図書)</p> <p>④-2 学習と読書の関連性強化(情報・図書, 全員)</p> <p>⑤-1 進路情報の収集と効果的な提供(渉)</p> <p>⑤-2 進路ガイダンス及び進路保護者会(説明会, 講演会等)の充実(渉)</p> <p>⑤-3 就職希望生徒への指導の強化(渉)</p>	<p>白さ, 学力向上の実感を視点に授業評価を実施。</p> <p>③-3 生徒の学びとそのプロセス, 既習事項及び今後学ぶ単元との系統性を考慮した授業が展開できた。また, 常に学習のねらいを意識し, これを生徒と共有できている。</p> <p>④-1 「図書館だより」を毎月発行し, 本年度からはホームページに掲載するなど, 広く啓発活動を行った。</p> <p>④-2 国語の授業やキャリア教育の調べ学習等で, 図書館の積極的な利用を図った。また, 進路指導室では, 大学入試(小論文対策等)に限らず, 知の構築を目指す魅力的な本を多数提供した。読解力の向上とともに自ら学び自ら考える力を育む機会となった。また, 新たな興味分野発見の手がかりとなっている。</p> <p>⑤-1 受験後に提出した「受験報告書」(小論文, 面接, 感想等)過去問(赤本・青本等)を整理し紹介した。進路室利用ガイダンス等により, 1・2年生の来室人数, 資料活用が増えた。進路選択が現実のものとなる3年生に対しては, 大学及び予備校等から全国レベルの変化等の情報を得るとともに, 精度の高いデータを担任と共有し, きめ細かな進路指導を行った。出願対策, 進路先決定に資することができた。</p> <p>⑤-2 12/13 1・2年生を対象に進路講演会(リモート)を実施した。進路指導主事が, 入試制度のほか, それぞれの学年の現状, 今そしてこれからすべきこと等を具体的に伝えた。自己実現に向けて必要な知識, 情報を得るとともに意識改革が図られた。</p> <p>⑤-3 生徒本人や保護者の考えを十分に聞き, また, 個人的な相談に応じながら適切な進路先決定に努めた。履歴書, 志望理由書作成を通して, 社会生活上の基本的な, マナーやコミュニケーション能力等, 社会人・職業人としての基本的な能力を培った。</p>	<p>トを提供すること</p> <p>ができた。学年ごとに具体的な課題提示ができ, 受験に向けた学習への意識変革につながった。与えられた情報や提案を生徒自身が自分なりに解釈し結論を出す力の育成が課題である。</p>	<p>積極的な読書活動が, 学力向上に結びついた中学校がある。本校は以前から県下でも図書の貸出し数の多い学校である。大学入学共通テストでも読解力が要求されているので読書指導の充実を望む。</p> <p>受験の動機, 必要性, 何のための学問かなど核心に迫る働きかけを希望する。早くに進路志望の決定ができれば, 勉強の仕方も見えてくるため, 色々な情報をわかりやすく生徒の伝えて欲しい。</p>	<p>りの習慣化</p> <p>④-1,2 継続実施</p> <p>⑤-1 情報の全職員間での共有化</p> <p>⑤-2 継続実施</p> <p>⑤-3 ハローワークとの密接な連携</p>
---	--	---	--	---

\* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 2

「支えあう仲間づくりと人権教育の推進」  
\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価		評価		学校関係者評価	今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 学校教育活動全体の中で、人権に関する理解を深め、人権感覚を養い、人権尊重の精神を涵養する。  (下位組織レベル) ①人権が尊重される人間関係づくり、仲間づくり ②人権学習、啓発活動の充実 ③教職員研修の充実 ④家庭や関係諸機関等との積極的な連携 ⑤特別支援教育の充実	<b>評価指標</b> ①人権学習ホームルーム活動満足度90%以上(90%以上目標→96%) ②個別人権課題「同和問題」実施回数 1回以上(新規) ③校内外研究大会、研修会参加率 70%(100%目標→0%) ④地域研修会への参加教員数 10人以上(10人以上目標→7人) ⑤特別支援教育相談活動に係わる職員の満足度90%以上(90%以上目標→75.7%)	人権学習ホームルーム活動満足度92% ----- 各学年とも年間1回以上実施 ----- 校内外研究大会、研修会参加率 100%(オンライン開催含む) ----- 地域研修会への参加教員数 10人 ----- 特別支援教育相談活動に係る職員の満足度 96%	評定 A ----- A ----- A ----- A ----- A	総合評価 評定 A	総合評価(評定) A	⑤ スクールカウンセラーの活用についての周知方法を改善する。
	<b>活動計画</b> ①-1 落ち着いた学習できる環境作りの促進(鑑) ①-2 生活実態調査の実施や個人面談等での実態の把握および対応(人権、保健) ②-1 個別人権課題「同和問題」ホームルーム活動の計画的・継続的な実施(人権) ②-2 人権問題啓発講演会、映画会及び校内人権問題意見発表会の実施(人権) ②-3 生徒の主体的な啓発(交流)活動の企画・実施、成果等の発信(人権) ②-4 「阿波高人権の日」に係る生徒主体の啓発活動の実施(人権) ③-1 指導方法の工夫・改善を図る研修会の実施(人権) ③-2 各種研究大会、講演会への積極的な参加と報告の徹底(人権) ③-3 生徒と学ぶ研修会の実施(人権) ④-1 保護者への啓発活動の実施(人権) ④-2 地域や市役所等との連携(人権) ⑤-1 特別支援体制の確立(教育相談) ⑤-2 相談活動及び専門機関等へのコーディネート(教育相談) ⑤-3 教職員の生徒理解、支援能力の向上(教育相談)	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 すべての教科及び人権学習において協働学習が取り入れられた。 ①-2 生活実態調査や個人面談等で、いじめの実態把握と対応が迅速に行われた。 ②-1 様々な人権問題を、3年間を通して系統的に学習できるように実施した。 ②-2 3月に映画会を行った。また、6/14切原宏和氏による「同和問題について考える」と題した講演会をオンラインで実施した。10/5生徒代表5名が個々の視点で人権問題についての考えを発表した。 ②-3 じんけん部員がオンラインも含めた「中・高生による人権交流集会」に参加した。 ②-4 人権委員会では、資料「知って考えて行動しよう」をクラスで案内することができた。 ③-1 学年別研修会および先行授業研究を行い、管理職・主事とも参加し、活発な意見交換ができた。 ③-2 オンラインも含め、実施された各種研究大会や講演会には、複数の教員が参加した。 ③-3 講演会の内容や人権の日の動画視聴について、生徒の感想を読んだり、HR担任や教科担任が授業の折に話題に触れることで共に学んだ。 ④-1 人権の日の資料「知って考えて行動しよう」を保護者に届けることが積極的にはできなかった。 ④-2 阿波市人権研究協議会の事務局を行うことで、地域のこども園および小・中学校・高等学校との意見交換ができた。 ⑤-1 生徒・保護者が安心して学校生活を送るために、各HR担任と保健室・教育相談課員の連携をさらに深めることができた。 ⑤-2 スクールカウンセラーが年間90時間来校してくださることで、学校での相談体制を作ることができた。 ⑤-3 7/5 池田支援学校美馬分校教諭 平岩真知氏を招聘し「合理的配慮のとらえ方について知る」の講演・演習を行った。	<b>所見</b> 人権に関する様々な話題に継続的に触れる活動により、大多数の生徒にとっては、支え合う仲間づくりができています。一方、自分の感情をコントロールすることが苦手な生徒も残念ながらいます。 また新型コロナウイルス感染症対策で、校外との交流がほとんどないため、客観的に評価する機会を持ちにくかったです。 現状をさらによくするためには、学習する機会のさらなる確保が必要である。  特別支援教育については、スクールカウンセラーの配置により、生徒・保護者・職員の相談・解決がスムーズに行われた。さらに、校内での連携を高めていきたい。	<b>学校関係者の意見</b> 全般的に活動計画に沿った取り組みができています。  コロナ禍の中、思い通りに動けない日々ではあったが、様々なツールを用いてできることを学ばれた1年だったのではないかと。先生方のご苦労に感謝します。  学校の取り組みを保護者に届けることについて今後とも工夫すると共に実践して欲しい。 今年度より教育相談としてスクールカウンセラーの先生が継続的に来校してくれるようになったことはよかった。悩みが小さいうちに相談できることも大切であることを生徒に教えて欲しい。	① 継続して実施  ② 3月の映画会や講演会は、新たな気づきを生みやすいため、来年度も実施する。また資料「知って考えて行動しよう」をさらに有効活用したい。 ③ 多忙中ではあるが、教員研修を充実し、教員の知識のブラッシュアップを図る。 ④ 資料やHPを利用して、保護者への啓発活動を活発にしたい。 ⑤ 生徒・保護者がさらに安心して学校生活を送れるようさまざまな活動を提案していきたい。	

\* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 3

「自己実現と社会貢献意識を高めるキャリア教育の推進」

\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価			学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
<p>(全体レベル)</p> <p>自らの成長に気づかせ、自己の価値観を形成させながら進むべき道を描けるようにさせるとともに、地域社会に貢献しようとする意欲を高める。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①「キャリア・パスポート」を核としたキャリア教育のプログラムの充実</p> <p>②地元自治体や企業と連携した「地域探究活動」の推進</p> <p>③主権者意識を高める教育の推進</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①基礎的・汎用的能力に関する「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力について、調査指標の値の増加が10ポイント以上 (10ポイント以上目標→7.5, 7.5, 7.5, 7.5)</p> <p>②社会的課題に主体的に向き合い、社会に貢献しようとする意欲について、調査指標の値の増加が10ポイント以上 (新規)</p> <p>③主権者教育に関する活動をとおして、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒が90%以上 (新規)</p>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <p>①7月と1月に調査し、その変化を数値化して評価した。調査は、「4つの能力」各々に当てはまる具体的な複数の項目の達成状況を回答する方法で行った。 「人間関係形成・社会形成能力」・・・5.0ポイント増加 「自己理解・自己管理能力」・・・5.0ポイント増加 「課題対応力」・・・7.5ポイント増加 「キャリアプランニング能力」・・・5.0ポイント増加 成長に対する自己評価という認識を持たせる働きかけが、必要である。来年度以降は、調査内容を再検討していく。</p> <p>②7月と1月に調査し、その変化を数値化して評価した。本年度は、12ポイント増加した。「総合的な探究の時間」で、地域の課題解決に取り組むことで、社会に貢献しているという実感が高まったと考えられる。</p> <p>③政治への関心度は、90%で目標達成することができた。</p>	<p>評定</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>総合評価</p> <p>評定</p> <p>B</p>	<p>総合評価(評定)</p> <p>B</p>	<p>① 成長に対する自己評価の評価指標を再検討していく。</p>
	<p><b>活動計画</b></p> <p>①-1 「キャリア・パスポート」に関する内容の授業時間数を年間6時間とする(AWA未来創造)</p> <p>①-2 大学や企業との連携をはかり、アカデミックインターンシップを実施する(総探)</p> <p>② 地元自治体や企業との連携を推進し、課題研究の取組の発展をはかる(総探)</p> <p>③-1 主権者教育教職員研修会の実施(公民科)</p> <p>③-2 主権者教育に関する学校行事やホームルーム活動を年間8回実施(公民科)</p> <p>③-3 全体計画を作成し、その実施において教科、領域間の連携をはかる(全教員)</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①-1ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」に設定し、予定どおり実施した。</p> <p>①-2 徳島県立総合教育センターによる「科学の誘い」に参加した。鹿島建設が作成した探究の手法に関するテキストを活用した。他に、新型コロナウイルス感染症の影響からZOOMによる実施もあった。</p> <p>②「総合的な探究の時間」において、阿波市や上板町の施設や小学校、こども園で校外研修を行い、さらに、阿波市役所の職員による講義を学校で実施するなど、阿波市と上板町との連携を推進し、課題研究の取組の発展をはかることができた。</p> <p>③-1 4/9予定通り実施した。</p> <p>③-2 2年生全員を対象に12/16選挙スクールを実施した。また、2年生の「総合的な探究の時間」では、主権者として地域の課題について考える取り組みを年間を通して8回以上実施した。</p> <p>③-3 全体計画を作成することで、主権者教育における学校全体の目標の明確化と教職員間における目標・計画の共通理解を行い、公民科や「総合的な探究の時間」、ホームルーム活動等との連携をはかることができた。</p>	<p>所見</p> <p>2年生の「総合的な探究の時間」における阿波市や上板町との連携の推進により、生徒の研究内容に深まりが見られ、地域の課題を認識、その解決に向かう姿勢が表れてきた。</p> <p>主権者教育を、積極的に行うことで、地域社会の一員であるとの自覚も高まった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で活動に制約があったが、校外の研修に参加する生徒が増加した。さらに、コンテストへの入賞も増加した。</p> <p>自己の成長の実感には、振り返りと教員による対話が不可欠である。それらの取組を工夫していくことが次年度の課題である。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>キャリア教育は、人生設計の中核に関わる重要事項であり、学習成果も上昇すると考えられる。さらに充実推進して欲しい。</p> <p>地元自治体や企業との連携は、将来の自らの生活の場である領域を考える絶好の機会である。さらに支援をお願いする。</p> <p>主権者教育は、自らの生き方を深く考えるよい契機となる。生徒が社会の中で自らの立ち位置を考える大きなステップになることを期待する。また、来年度より、18歳で成人になることの対応を充実させて欲しい。</p>	<p>①-1 継続実施</p> <p>①-2 探究の手法の習得について、更なる深化をはかる</p> <p>② 継続実施</p> <p>③-1 継続実施</p> <p>③-2,3 各課、各教科との連携の更なる深化</p>	

\* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 4

「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」  
\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価			学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
<p>(全体レベル)</p> <p>生徒理解の深化と信頼関係を基盤に、生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。安全・安心な学校生活と、違いを認め合える人間関係づくりを推進する。また、よりよい校風を築いていくために、学校のために何ができるかを考えさせる。</p>	<p>評価指標</p> <p>①遅刻者数(日平均)2.5人以下(3.0人以下目標→2.6人) 交通事故発生件数 5件以下(4件目標→8件) 自転車安全カード(警告書)交付数 0人(新規) 特別に配慮し指導した生徒数 1%未満(新規) 交通安全意識の高揚度 95%以上(新規)</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①遅刻者数(日平均)2.9人 交通事故発生件数 9件 自転車安全カード(警告書)交付数 0人 特別に配慮し指導した生徒数 0.99% 交通安全意識の高揚度 99%</p>	評定	総合評価	総合評価(評定)	② 生徒相談週間をどのような形にするかより良くなるか思考し改善する。
	②教育相談週間実施数 3回以上(3目標→3)	②教育相談週間実施数 3回	B	B		
	③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施 1回(新規) いじめに関する項目 1%未満(新規) 自分から挨拶ができていない割合 90%以上(新規)	③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施 1回 いじめに関する項目 0.3% 自分から挨拶ができていない割合 87%以上	B	B		
<p>(下位組織レベル)</p> <p>①社会的な自立に向けて、基本的生活習慣の確立や、規範意識の向上を目指した教育を推進する。</p> <p>②教育相談体制の充実を図り、すべての生徒が安心して学校生活を送れる学校作りを推進する。</p> <p>③「学校いじめ基本方針」の点検・見直しを図り、組織的にいじめの未然防止に努める。</p>	<p>活動計画</p> <p>①-1 生徒指導全校集会の実施(主指) ①-2 遅刻指導週間の実施と改善指導の徹底(主指) ①-3 登下校指導や街頭指導の実施(主指) ①-4 自転車・バイク点検の実施と講習会の実施(主指) ①-5 警察・補導センター等関係諸機関との連携(主指)</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 4/30, 6/1, 7/20, 8/30, 10/1, 11/1, 12/23, 1/11リモートで生徒指導主事の講話を行い、自己指導能力の育成に努めた。 ①-2 各学期に1回(4/19-23, 10/19-22, 2/7-10)年間3回実施した。 ①-3 毎月20日の学校安全の日の登校時に街頭指導を行った。交差点14か所に正担任か副担任が立ち、自転車、バイクの安全、マナー等の指導を行った。また、毎日2名が校門に立ち登校マナー、挨拶、身だしなみ等の指導を行った。下校時には教頭、生徒指導主事等がバイクの出入りに立ち一時停止、左右確認等の指導や学校周辺の巡視を行った。 ①-4 4月に生徒指導課でバイク、正副担任で自転車の点検およびステッカーの確認を行った。7/13全校生徒対象に、交通安全講話を実施した。7/15阿北自動車教習所で第2学年を対象に原付安全実技講習会を実施した。ブレーキング、バランス走行を行い、指導助言を受けた。また交差点事故の実技検証を実施し、個々のケースに学んだ。 ①-5 生指協等を通して阿波吉野川警察署、補導センターと定期的に情報交換し、内容を職朝等で職員に連絡した。また問題行動の対応についても連携を図り、助言を指導へ生かした。</p>	所見	学校関係者の意見	<p>①-1 生徒指導便りを発行し、講話の質を上げる。 ①-2 事故防止の観点からも継続実施 ①-3 下校時の指導を徹底し、送迎時のマナーアップに努める。 ①-4 点検や講習会は継続実施。交通安全集会等で事故件数を減らす。 ①-5 さらに連携強化に努める。</p>	
②-1 保健室相談機能の有効活用(教育相談、養教) ②-2 情報の共有化と支援プランづくり(教育相談) ②-3 専門家による研修会の実施(教育相談) ②-4 教育相談週間の設定(教育相談) ②-5 スクールカウンセラーの派遣(教育相談)	②-1 養護教諭がカウンセリングを実施し、家庭での問題や身体、性に関する悩み等を聴き適宜担任等に報告した。 ②-2 「支援を要する生徒」について、必要に応じて関係者会を開催し情報交換を行い、支援の方向性等を検討した。 ②-3 教育相談職員研修会を人権教育課と合わせて実施した。7/7池田支援学校 平岩真知氏を招聘し「合理的配慮の捉え方を知る」、11/16おやこひろば桜梅桃李 柳谷和美氏「デートDVとその後～自分らしく生きるためには～」の講演をオンラインで聴き研修を行った。 ②-4 年間3回(4/12-16, /9-17, 1/11-14)教育相談週間を設定した。 ②-5 心理的な要因により学校に来られない生徒や不安を抱える生徒に、スクールカウンセラーが生徒や保護者のカウンセリングを実施するとともに、支援方法について指導助言を得た。	②-1 養護教諭がカウンセリングを実施し、家庭での問題や身体、性に関する悩み等を聴き適宜担任等に報告した。 ②-2 「支援を要する生徒」について、必要に応じて関係者会を開催し情報交換を行い、支援の方向性等を検討した。 ②-3 教育相談職員研修会を人権教育課と合わせて実施した。7/7池田支援学校 平岩真知氏を招聘し「合理的配慮の捉え方を知る」、11/16おやこひろば桜梅桃李 柳谷和美氏「デートDVとその後～自分らしく生きるためには～」の講演をオンラインで聴き研修を行った。 ②-4 年間3回(4/12-16, /9-17, 1/11-14)教育相談週間を設定した。 ②-5 心理的な要因により学校に来られない生徒や不安を抱える生徒に、スクールカウンセラーが生徒や保護者のカウンセリングを実施するとともに、支援方法について指導助言を得た。	予防的な指導がこれから大切となってくる。自分の可能性を信じ、自分自身を高めていくスキルを身につけさせたい。しかし、自ら課題を見つけ、問題解決のスキルを身につけるには、生徒それぞれが理想を描いたり、自分なりの美学を持つ必要がある。安心安全な環境を整え、自分自身とじっくり向き合う時間をつくり、一人ひとりの自主創造につなげたい。 教科担任や養護教諭等からの情報が、生徒の状況を把握することに役立つ。生徒の不安や悩みにいち早く気付くことができ、学年等で情報共有することができた。また、カウンセラーの活用が、問題の早期解決につながった。	遅刻者数と交通事故発生件数は関係があり微増している。交通事故の発生後は、事故事例研究会を実施すると効果があるのではないかと。生徒の命に関わることなので注視して欲しい。また、生徒のスマホの使い方が気になる。使い方の調査をしてもよいのではないかと。生徒指導に関しては、生徒指導協議会との連携や全教員で内容を共有するなど、細かく対応することができている。 今年度より教育相談の専門家としてスクールカウンセラーの先生が継続的に来校してくれるようになったことは評価できる。お互いを認め合う人間関係づくりが築けるよう今後も研修を継続して欲しい。	② スクールカウンセラーの周知方法について改善するとともに、さらに活用しやすい状況を作っていく。	
③-1 教職員の共通理解(主指) ③-2 いじめに関する教職員研修の実施(主指) ③-3 学期別2者面談の実施(主指)	③-1 学年会において、頭髪・服装指導等について共通理解と情報共有を行った。また、問題行動発生時に生徒指導課と該当学年団が連携して動くとともに適宜職員会議を開催し、全教職員で対応した。 ③-2 生徒指導主事の研修の中から、本校の実情に合ったケースをピックアップし、研修を実施した。 ③-3 ②-4教育相談週間の項目に同じ。	③-1 学年会において、頭髪・服装指導等について共通理解と情報共有を行った。また、問題行動発生時に生徒指導課と該当学年団が連携して動くとともに適宜職員会議を開催し、全教職員で対応した。 ③-2 生徒指導主事の研修の中から、本校の実情に合ったケースをピックアップし、研修を実施した。 ③-3 ②-4教育相談週間の項目に同じ。		問題行動については、該当学年団を中心に全教職員が一丸となって一層の推進をお願いする。問題行動への対処だけでなく、生徒に考えさせる生徒指導が大事ではないか。	③-1 ハンドブック見直しを図り、わかりやすい指導心がける。 ③-2 ケーススタディーを実施する。	

\*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 5

「特別活動の活性化と豊かな人間性の育成」

\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価			学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 環境作りに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。  (下位組織レベル) ①生徒会の活性化  ②部活動の充実・活性化  ③学校行事(学校祭等)の活性化	<b>評価指標</b> ①生徒のHR活動満足度 83% (83%目標→83%) 生徒の学校行事満足度 84% (84%目標→84%) 新企画数 3以上 (3目標→3)	<b>評価指標による達成度</b> ①生徒のHR活動満足度 83%  生徒の学校行事満足度 84%  新企画数 3	評定  A  B  B	総合評価  評定  B	総合評価(評定)  B	① HR活動の新しい取り組みを考える。 ② 部活動の広報活動を工夫・改善する。 ③ 生徒が主体的に取り組める学校祭とする。
	②部活動加入率 87%以上 (87%目標→87%) ③文化祭肯定評価 92%以上 (92%目標→75%)	②部活動加入率 83%  ③文化祭肯定評価 81%				
	<b>活動計画</b> ①-1 生徒による新しい活動の企画・運営(特活)  ①-2 学校行事への主体的な参画(特活)  ①-3 社会貢献活動への企画・実施及び参加(特活)  ②-1 顧問と生徒、保護者との良好な人間関係づくり(部活顧問)  ②-2 部活動顧問会議の開催と意見交換(部活顧問) ②-3 管理職への報告・連絡・相談の徹底(部活顧問) ②-4 部活動のスリム化(特活) ②-5 活動及び結果等の広報活動(部活顧問)  ③ 生徒の主体的な活動支援(特活)	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 球技大会、学校祭、予餞会、3年に一度の芸術鑑賞会をコロナ感染防止の観点により、新しい企画・運営で実施した。 ①-2 生徒会や各部活動、各専門委員会が学校祭の計画・準備、球技大会の運営を行い、主体的な役割を担った。 ①-3 遍路道清掃活動を生徒会で企画し、35名が参加した。  ②-1 生徒の主体性を重視し、指導を行った。各部活動の大会は多数が無観客での開催であったが、保護者との連絡を密にし、活動状況等の情報伝達を行った。 ②-2 学期に1回部活動顧問会議を開催し、活動内容等の情報交換を行った。熱中症対策、体罰禁止、感染症対策の徹底を確認した。 ②-3 感染防止・熱中症予防の対応について職員に周知し、濃厚接触者やPCR検査結果、怪我や熱中症等の報告を徹底した。 ②-4 調理部を廃部。 ②-5 11月17日の体験入学時や中学校進学説明会での活動紹介を行い、ホームページに大会結果や活動状況を掲載した。  ③-1 生徒会や専門委員会において、生徒からの企画・発案を促した。	<b>所見</b> 規範意識、公共の精神、社会貢献の意識を高めるとともに、豊かな人間性・社会性を育てている。 各部活動の大会等は無観客や縮小での開催であるが、生徒達も参加、出場することが出来た。感染防止対策を大前提として、学校祭、球技大会、予餞会、芸術鑑賞会をできるだけ本来の形での開催を模索したが、縮小やオンラインでの実施となった。生徒達の前向きな取り組みにより、充実した活動ができた。	<b>学校関係者の意見</b> コロナ禍で対応される先生方のご苦勞に敬意を表する。学校行事が中止ではなく形を変えて実施できたことは素晴らしい。団体行動でしか身につかない人間力もあるので工夫して実施して欲しい。 コロナ禍で部活動には影響が大きい。生徒の学校教育活動の重要な側面であり、意識低下や活動の脆弱化につながらないよう支援をお願いしたい。  生徒の主体的な取り組みは重要である。インパクトのある取り組みに対して支援をお願いする。	① コロナ禍以前以上の活発な活動を目指す。  ② コロナ禍以前以上の活発な取り組みとともに、気を抜くこと無く新たな生活様式として感染対策の徹底を継続する。  ③ 生徒会の新たな企画を生み出せるような組織運営に改善する。	

\*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点課題 6

「環境教育の充実と安心・安全な学校づくりの推進」

\* 「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった

重点目標	評価指標と活動計画		自己評価		学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)		
(全体レベル) 創造的な活動を通して集団、社会の一員としての自覚を深め、よりよい生活、環境づくりに主体的に取り組む意欲と実践力を育てる。	①校内美化に関する満足度 65% (65%目標→59.8%)	①校内美化に関する満足度 教職員69% 生徒48%	評定 C	総合評価 B	総合評価(評定) B		
	②地域清掃活動の各回参加者数 100人以上 (新規)	②地域清掃活動の各回参加者数 平均 189名	A				
	③生徒の防災意識度 75%以上 (75%目標→71.2%)	③生徒の防災意識度 71.7%	B				
	④生徒の朝食摂取率 93%以上 (93%目標→91.6%)	④生徒の朝食摂取率 91.5%	B				
	⑤生徒の野菜摂取率 80%以上 (79%目標→83.1%)	⑤生徒の野菜摂取率 80.4%	A				
(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況	所見	学校関係者の意見			
①衛生・美化意識の高揚 ②環境教育・消費者教育の推進 ③防災教育の充実 ④健康意識の高揚と啓発活動の充実 ⑤食育の推進	①-1 日常の清掃活動の徹底(競・駐) ①-2 教室等のゴミ分別の徹底(競・駐) ①-3 一斉大掃除の計画的実施(競・駐) ②-1 地域清掃活動の充実による環境ISOの推進(競・駐) ②-2 教科間の連携による消費者教育(競・駐) ③-1 学校防災計画の作成と職員への周知(競・駐) ③-2 防災避難訓練等の効果的な実施(競・駐) ④-1 心肺蘇生法・食物アレルギーに関する講習会の実施(競・駐) ④-2 「保健だより」の効果的な活用(競・駐) ④-3 厚生委員会活動の活性化(競・駐) ④-4 保護者や関係機関との連携(競・駐) ④-5 学校保健委員会の充実と結果の活用(競・駐) ⑤食育全体計画の組織的な実施(競・駐)	①-1 各HRが多くの清掃場所を担当しているが、学校全体として、時間を有効に活用しながら清掃活動に取り組んだ。 ①-2 美化委員が毎日、教室のゴミの分別状況を確認して表に記入し、分別を呼び掛けた。ほとんどの教室できちんと分別できていた。燃やせるゴミの分別は徹底できたが、ペットボトルと空き缶については、わずかではあるが、あまり分別できていないとの報告もあった。 ①-3 各学期はじめと終わり、学校行事の前に大掃除を実施した。毎日の清掃時間には十分に行き届かなかった箇所にも熱心に取り組んだ。 ②-1 5/31, 6/29, 10/22, 12/13に地域の清掃活動を実施した。環境委員と美化委員のほか、毎回多くの生徒が参加し、学校周辺の清掃活動や校内の草取りなどを行い、持ち帰ったゴミを分別した。 ②-2 公民科や家庭科を中心に、各学年で消費者教育を推進した。法務省によるリーフレット「18歳を迎える君へ 契約について学ぼう」や消費者庁による冊子「社会への扉」を活用したほか、成年年齢引き下げで消費生活はどう変わるかという視点で、Zoomによる講演を実施した。また、エシカル消費教育の一環として、1年生の料理レシピコンクール作品の中から、とくに、地元の野菜を使った作品を野菜と一緒に展示し、地産地消について学んだ。 ③-1 学校防災計画を作成し、職員に周知した。 ③-2 4/30の全校集会では、防災士資格取得者の生徒3名が、全校生に向けて、防災に関するプレゼンを行い、校内の防災意識の高揚に努めた。6/17に緊急地震速報行動訓練を実施した。事前に震度と揺れ等の状況について学習し、避難経路の確認を行った。また、7/13には徳島中央広域連合中消防署と連携し、火災を想定した避難・消火訓練を実施した。9/1の防災の日には防災HR活動を実施し、生徒は資料や防災クイズを通して地震について学んだ。 ④-1 5/25 大島器械 前田氏による心肺蘇生法(AED)講習会、養護教諭による食物アレルギーに関する講習会を実施した。 ④-2 保健だよりの教室掲示に当たりHRで生徒厚生委員が内容説明を行った。内容は生徒の健康課題に合ったものやタイムリーな情報を集め、見やすいレイアウトを工夫した。毎月の保健だよりはホームページにも掲載し、夏休み号は三者面談で全員に配付した。 ④-3 手洗い場の管理(石けん液、消毒液の補充)、健康診断の補助、阿波高祭の救急処置活動、保健だより教室掲示の事前指導等、年間を通して活動を支援した。また、厚生委員と生徒有志で加湿器のお手入れ動画を作成し、厚生・環境・美化の合同委員会を開催し、各HRに設置した加湿器の清掃について事前指導を実施した。 ④-4 12/15 徳島大学大学院教授 滝沢宏光氏とAWAがん対策募金理事 宮本良之氏を招聘し、1年生を対象に「がんにならない生活を送ろう」と題した講演とがん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施した。 ④-5 12/7 学校保健委員会を開催した。学校医、学校歯科医、学校薬剤師より、感染症予防や歯と口の健康、生活習慣改善等について指導助言を得た。内容については保健だより1月号に掲載し、生徒、教職員に周知した。 ⑤家庭科を中心に各教科、領域において食育が推進できるよう、食育全体計画を作成した。家庭科では、夏休みに1年生全員がオリジナルの料理レシピを考えてコンクールに出品し、生徒は、自分自身の健康な食生活に対する意識を高めることができた。	日々の清掃活動やゴミの分別、地域の清掃活動にきちんと取り組んでいるが、校内美化に対する生徒の満足度は低かった。伝統ある校舎を大切にしながら、清掃後には、より美しいと感じられるよう、清掃指導を継続する必要がある。 机下避難訓練の実施により、12月の地震の際にも、生徒は迅速に机の下に潜り、的確な行動をとることができた。教職員も、日常の訓練や防災教育の重要性を再認識した。 教職員が正しい心肺蘇生法やAED、エビペン注射の使用方法を理解し、傷病者への迅速かつ適切な対応能力を身に付けることができた。 生徒厚生委員は、自らが保健・衛生の重要性について認識するとともに、委員としての役割を果たすという責任感が育った。 生徒が心身の健康を保ちながら、よりよい学校生活や社会生活を送れるよう、今後も教科または職員間の連携を図りながら健康、環境に関する指導や、消費者教育、食育を推進していく必要がある。	校舎も古いため満足度が低いのか、校内美化に関して教職員と生徒間でずれがある。今後もゴミの分別は継続して欲しい。生徒の清掃や校内美化に対する意識を一層強めるようさらなる働きかけの工夫をお願いする。 学校周辺や地域の清掃活動を実施し、消費者教育やエシカル消費教育を推進しており評価できる。SDG's具現の担い手として生徒の成長を支援して欲しい。 防災・避難についての認識をさらに高め、地震に対しては日頃からの備えが大切であることを十分理解、体得させて欲しい。防災士資格取得者である生徒の防災に関するプレゼンは継続して欲しい。 自らの健康に関心を持ち、生活習慣改善に努め、安心安全な生活の確保と維持を常に考えられる生徒の育成を尚一層お願いしたい。	①-1 清掃内容について具体的な目標を立て、積極的な取り組みを促す。 ①-2 継続実施 ①-3 清掃用具の整備をはかり、指導を継続 ②-1 清掃方法を見直し、機会の有効活用をはかる。 ②-2 教科間の連携強化 ③-1 継続実施 ③-2 継続実施 ④-1 シミュレーション実習の導入 ④-2 継続実施 ④-3 厚生委員がリーダーとなり、よりよい生活習慣を継続させていく指導方法の工夫 ④-4 継続実施 ④-5 家庭との連携強化 ⑤HR活動での食育推進		

\* 「評定」の基準

重点課題 7

「地域に開かれた魅力ある学校づくりの推進」

\*「評価指標」の( )内は、昨年度の目標→実績

重点目標	自己評価			学校関係者評価		今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価指標による達成度	評価	総合評価	総合評価(評定)	
(全体レベル) 積極的に情報発信を行うと共に地域と密接に連携を図りながら魅力的な学校づくりを推進する。  (下位組織レベル) ①魅力ある学校づくり ②積極的な情報発信 ③広報活動の充実	<b>評価指標</b> ①阿波高校への満足度 80%以上 (新規) ②本校Webサイト更新回数 年間50回以上 (新規) ③学校説明等訪問中学校 10校以上 (10校以上目標→10校)	<b>評価指標による達成度</b> ①阿波高校に入学して(させて)良かったと「思う」,「やや思う」の合計 生徒:88% 保護者:89% ②本校Webサイト更新回数 66回(令和3年12月時点) ③学校説明等訪問中学校 10校	評定 A A A	総合評価 評定 A	総合評価(評定) A	
	<b>活動計画</b> ①-1 学校教育活動全般及び部活動の充実(類)  ①-2 業務改善の推進(類)  ② 本校Webサイトの充実(情報・図書課)	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 コロナ禍の中,各教科等の授業や特別活動を感染対策をとりながら計画通りに実施することができた。また,タブレット活用の環境も整えることができた。また,部活動においても練習時間の短縮や練習試合に制約がある中,練習メニューを工夫しながら各部とも充実した活動を行えた。 ①-2 調理部の廃止,土曜補習の中止,夏休みに閉庁日の設定が行えた。完全下校時間を設定し,業務改善が進んだ。 ② 令和2年度から開始されたWebサイト移行作業が令和3年6月に完了し,各ページの更新作業を再開した。校内の教育活動や校外で実施した行事等の紹介,各御家庭や周辺地域への連絡等,情報発信に活用している。また,閲覧方法の多様化に対応し,PC,タブレット,スマートフォン等,いずれの端末に対してもレイアウトの整ったページになるよう工夫している。 令和3年4月1日~4年1月28日間のアクセス数1,458,209回(4,977回/日)	<b>所見</b> 学校評価アンケートの「阿波高校に入学して(させて)良かったと思えますか。」の問いに対して,生徒,保護者共に肯定的な回答が90%近くあり,本校の取組にほぼ満足しているものと考えている。アンケートの自由記述では,HPの行事予定の更新に関する要望が多かった。	<b>学校関係者の意見</b> コロナ禍での教育活動に様々な工夫改善がなされている。継続的に取り組みをお願いしたい。これまでの取り組みが高い評価を得たことは大変よかった。  今年度,本校のHPはよく読まれている。更新回数66回はとても多い。先生方も大変な作業となるが,こまめな更新をお願いしたい。HPの内容を充実させて,阿波高の魅力を発信して欲しい。	①進路・部活動の実績を向上させるために引き続き教育活動を充実させると,同時に可能な限り業務改善も進めていきたい。  ②多くの方々にとって,本校について最初に得る情報がWebサイトからのものである可能性は高い。常に美しい状態を保ち,必要な情報がすぐに見つかる構成にするとともに,タイムリーな情報発信を心がける。	
	③-1 中学校での学校説明会の実施(教務課)  ③-2 学校公開(授業等)の実施(教務課)	③-1 依頼のあった10中学校の進学説明会等に校長と教務主任が出向き,本校教育の概要等を説明した。また,中学校への個別訪問を実施し,中学校長及び進学主任等に本校教育の概要等を説明した。 ③-2 オープンスクールを実施し,ICTを活用した授業および部活動を公開した。		地域の普通科進学校の役割を果たしつつ,魅力ある学校づくりを推進していただきたい。	③-1 石井中学校,高浦中学校への訪問の実現 ③-2 中学生体験入学の再開	

\*「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:全く達成できなかった